

# 埋蔵文化財

特集

## 飛驒の古代瓦

2005年度調査事業計画

のぞいてみよう!  
今年の遺跡



寿楽寺廃寺跡（飛驒市）出土の古代瓦

考古学教室④

出土銭が教えること

あゆみ

センター年間行事予定ほか

センター掲示板

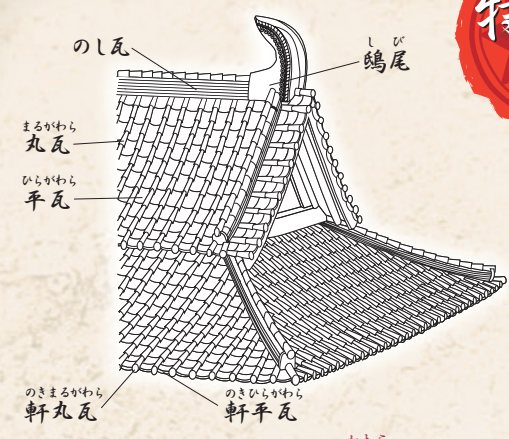
夏休み タイムスリップ探検隊（飛驒）参加者募集

新企画!! わくわく土器・土器大研究 参加者募集

# 飛驒の古代瓦

## 高家寺の瓦にみる飛驒文化の源流

古代において瓦は、寺院など特別な建物だけのために作られ、進んだ文化の象徴でした。飛驒で作られた古代瓦に、飛驒文化の源流をさぐります。



寺院を飾った瓦たち



寿楽寺廃寺跡



遺跡全景(中央が現在の寿楽寺、左が神原峠)西から

### 高家寺の軒丸瓦

発掘調査では3万点を超える瓦の破片が出土しました。それらを調べることで、当時の文化交流の様子などを知ることができます。出土した各種の瓦のうち、ここでは軒丸瓦を取り上げることになります。高家寺の軒丸瓦は、文様から6種類に分けることができます。

①～④は蓮の花をデザインした蓮華文の軒丸瓦です。このうち③と④についてはあまり詳しいことがわかっていませんが、①と②は、兄弟のように似ている瓦で、高家寺では最もポピュラーなタイプです。①は滋賀県大津市の衣川廃寺跡によく似た瓦があり、②は長野県明科町の明科廃寺跡に全く同じ瓦があることが知られています。したがって、このデザインの瓦は、都に近い近江との深い交流のもとに作られ、その後北アルプスを越えて信濃に伝えられたと考えられています。①については市内の窯で焼かれたことが明らかとなっているのですが、飛驒のものの方が近江のものに比べてつくりが丁寧で、より洗練されているといわれています。

⑤は忍冬文という文様の軒丸瓦で、つる草のスイカズラをモチーフとしています。飛驒近辺の寺院では使われていない珍しい瓦です。このデザインの瓦は、大阪府羽曳野市の野中寺跡や、愛知県名古屋市の尾張元興寺跡まで行かないと見ることはできません。

しかし、高家寺の瓦で最も珍しいのは、星形や菱形からなる独特な文様が目を引く⑥です。全国的に見ても類例のない瓦なので、飛驒で独自の工夫の結果、新たに生み出されたと考えられます。①と同じく地元の窯で作られています。ふつう地方で独自に作られた瓦には文様を簡略化した粗雑なものが多いのですが、この瓦の場合は、デザインも斬新で、仕上げも丁寧です。



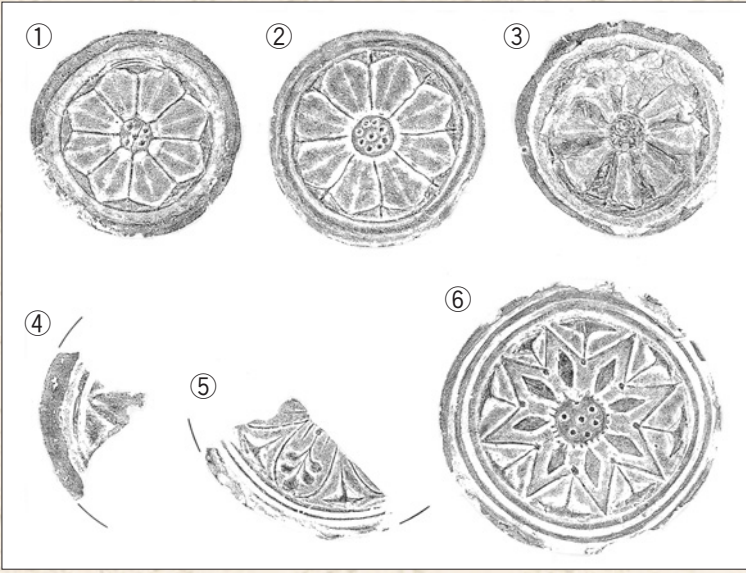
### 太江の「高家寺」

飛驒市古川町の市街地から北西に約3km、神原峠を経て神岡町へぬける街道の登り口に太江という集落があります。集落の入り口から少し入った辺りに建つ寿楽寺の周辺では古代の瓦が見つかったことから、地中に古代寺院跡が埋もれていると予想され、「寿楽寺廃寺跡」という遺跡名で呼ばれてきました。

平成10年から15年にかけて実施した発掘調査で、新しい発見がありました。寺院跡から「高家寺」と墨で書かれた須恵器が出土し、この地に眠る古代の寺院の名前が明らかとなったのです。この「高家」は、現在の地名「太江」と音が似ていることも注目されます。



寺院名を記した須恵器



高家寺の軒丸瓦 (②⑤⑥は寿楽寺蔵)

### 古代飛驒文化の特質



⑥タイプの軒丸瓦

古代の飛驒では、他地域にも増して盛んに寺院が建てられたことが知られています。それは、都を中心とする畿内の進んだ地域とつながりをもつ有力者が多かったからだと考えられます。高家寺の軒丸瓦に、畿内の文化につながるデザインのものが多くみられることや、三彩陶器という都からもたらされた色鮮やかな高級陶器が出土したことなどが、そのことを裏づけています。古くから築き上げられ、都の造営などにも生かされた飛驒の高度な木工技術が、飛驒と都とを強く結びつける役割を果たしたのではないのでしょうか。

飛驒の古代瓦に見られる独創的なデザインや、細部に施された精巧な技に、飛驒文化の源流を見る思いがします。



高家寺の三彩陶器の蓋

※発掘調査を行った遺跡の名称は「寿楽寺廃寺跡」ですが、調査により古代には「高家寺」と呼ばれた寺院が存在していたことが明らかになったため、本文では統一して「高家寺」と表記しています。

2005年度  
調査事業計画

# のぞいてみよう!今年の遺跡

**凡例**

時代マーク  
 縄文 縄文時代 弥生 弥生時代 古墳 古墳時代  
 古代 古代 中世 中世 近世 近世

事業マーク  
 発掘 整理 報告書

はげはらむらだいら  
**1 櫛原村平遺跡** (揖斐川町) 縄文 弥生 古墳  
 古代 中世 近世

揖斐川の上流部にある集落遺跡です。縄文土器・中世～近世の陶磁器・石器・金属製品など、多くの遺物が出土しました。中国からの輸入陶磁器のなかに「梅瓶」という貴重なものも見つかりました。今年度は、縄文時代の遺物中心に整理を進めます。

事業者：独立行政法人水資源機構徳山ダム建設所  
 事業名：徳山ダム建設



縄文土器の分類作業の様子

はげはらむらだいら  
**櫛原村平遺跡** (揖斐川町) 縄文 弥生 古墳  
 古代 中世 近世

平成14・15年度の調査では、中世・近世の掘立柱建物跡、縄文時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡などが見つかりました。今年度は、その南西側の区域を調査します。各時代の集落の広がりを確認できるのではないかと期待しています。

事業者：独立行政法人水資源機構徳山ダム建設所  
 事業名：徳山ダム建設

のうち  
**2 野内遺跡B・C・D地点** (高山市) 縄文 弥生 古墳  
 古代 中世 近世

今年度は、高山市上切町の山際に広がる3つの地点(B・C・D地点)で調査を行っています。奈良～平安時代にかけての鉄鍛冶に關係する跡が見つかったB地点は3年目、鎌倉時代の掘立柱建物跡を発見したD地点は2年目の調査になります。また、新たに調査を開始したC地点は、湿地であるため、木製品など貴重な発見が期待できます。

事業者：国土交通省高山国道事務所  
 事業名：中部縦貫自動車道建設



土器の分類作業の様子

のうち  
**野内遺跡A地点** (高山市) 縄文 弥生 古墳  
 古代 中世 近世

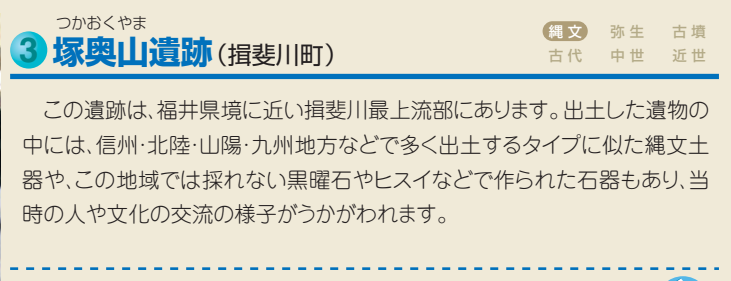
平成15年度に調査した古墳時代の集落跡です。50軒を超える竪穴住居跡を発見しました。南西約300mに位置する赤保木古墳群との密接な関係が考えられます。

事業者：国土交通省高山国道事務所  
 事業名：中部縦貫自動車道建設

つかおくやま  
**3 塚奥山遺跡** (揖斐川町) 縄文 弥生 古墳  
 古代 中世 近世

この遺跡は、福井県境に近い揖斐川最上流部にあります。出土した遺物の中には、信州・北陸・山陽・九州地方などで多く出土するタイプに似た縄文土器や、この地域では採れない黒曜石やヒスイなどで作られた石器もあり、当時の人や文化の交流の様子がうかがわれます。

事業者：独立行政法人水資源機構徳山ダム建設所  
 事業名：徳山ダム建設

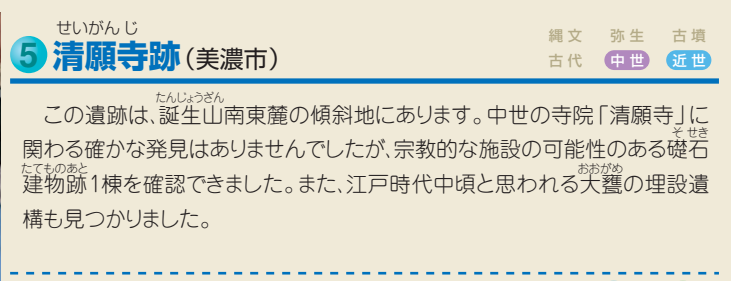


拓本作業の様子

せいがんじ  
**5 清願寺跡** (美濃市) 縄文 弥生 古墳  
 古代 中世 近世

この遺跡は、誕生山南東麓の傾斜地にあります。中世の寺院「清願寺」に関する確かな発見はありませんでしたが、宗教的な施設の可能性のある礎石建物跡1棟を確認できました。また、江戸時代中頃と思われる大甕の埋設遺構も見つかりました。

事業者：岐阜県基盤整備部美濃建設事務所  
 事業名：急傾斜地崩壊対策

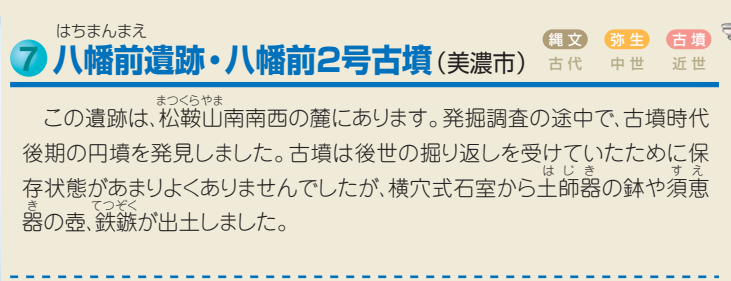


大甕の復元作業の様子

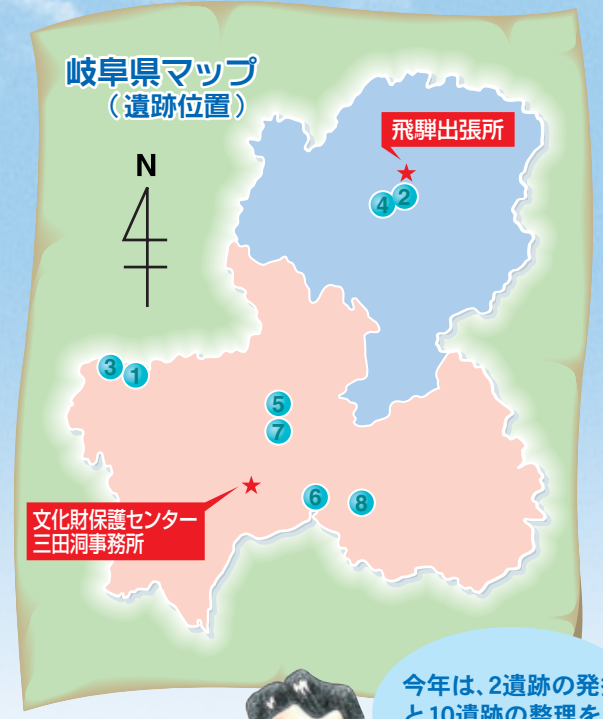
はちまんまえ  
**7 八幡前遺跡・八幡前2号古墳** (美濃市) 縄文 弥生 古墳  
 古代 中世 近世

この遺跡は、松鞍山南南西の麓にあります。発掘調査の途中で、古墳時代後期の円墳を発見しました。古墳は後世の掘り返しを受けていたために保存状態があまりよくありませんでしたが、横穴式石室から土師器の鉢や須恵器の壺、鉄鏃が出土しました。

事業者：岐阜県基盤整備部美濃建設事務所  
 事業名：県道富加美濃線道路改良



石室から出土した土師器の鉢



今年は、2遺跡の発掘と10遺跡の整理をします。



あかほぎ  
**4 赤保木遺跡** (高山市) 縄文 弥生 古墳  
 古代 中世 近世

縄文時代を中心に竪穴住居跡32軒を発見しました。その中には炉の内側に土器の破片を敷いた土器敷炉など、石囲炉をもつ住居が14軒ありました。また、動物の姿をかたどる突起のついた動物意匠文土器などの縄文土器のほか、弥生土器・土偶・石鏃・石皿なども出土しました。

事業者：国土交通省高山国道事務所  
 事業名：中部縦貫自動車道建設



炉に敷かれていた土器

ひがしの  
**6 東野遺跡** (坂祝町) 縄文 弥生 古墳  
 古代 中世 近世

美濃加茂盆地と加茂野台地の接する河岸段丘上にある遺跡です。縄文時代の竪穴住居跡1軒や、古墳時代の竪穴住居跡21軒・掘立柱建物跡14棟などを発見しました。整理を進めていくなかで、ここに暮らした人々の生活の様子が分かってくるのではないかと期待しています。

事業者：岐阜県基盤整備部可茂建設事務所  
 事業名：一般国道248号太田バイパス道路改良



竪穴住居跡から出土したS字状口縁台付甕

かみえ どうじょうあと うらはた  
**8 上恵土城跡・浦畑遺跡** (御高町) 縄文 弥生 古墳  
 古代 中世 近世

鎌倉時代～江戸時代の掘立柱建物跡や井戸跡、埋設穴、土壁などを発見しました。また、中世～近世の陶磁器類や石礫が入った地境溝も見つかりました。今年度の整理で、集落の移り変わりが明らかになり、連続と続く人々の生活が復元できそうです。

事業者：国土交通省多治見砂防国道事務所  
 事業名：一般国道21号可児御嵩バイパス建設



浦畑遺跡の土塁

日本の時代区分表

BC (紀元前)		AD (紀元後)										
旧石器時代		縄文時代		弥生時代		古墳時代	古代	中世	近世	近・現代		
						平安時代	鎌倉時代	室町時代	江戸時代	明治	昭和	平成
注) 日本の旧石器時代の始まりについては、現在、再検討されています。よって、本紙では、新たな見解が発表されるまで、年代の記載を中止いたします。また、縄文時代の始まりについては、ほかに約13000年前など、いくつかの説があります。弥生時代の始まりについても、最近新しい説が発表されましたが、本表では、従来の説に従っています。		約12000年前 (100年を5mmで表現すると、縄文時代は約60cmになります)		約2300年前		約1700年前	710/794	1192/1333	1573/1603	1868		
						飛鳥時代	奈良時代	安土・桃山時代		大正		

※上記の遺跡のほか、いじま遺跡・櫛原神向遺跡(揖斐川町)、大杉西遺跡(関市)、大平遺跡(恵那市)、西ヶ洞廃寺跡・中野山越遺跡・中野大洞平遺跡・大洞平5号古墳(飛騨市)の8遺跡の調査成果をまとめた報告書4冊の刊行を予定しています。



# 出土銭が教えること



山内 裕行

「地面を掘ったらお金が出てきましたよ。」なんて言えば宝探しのようで、なんだかワクワクしてきますね。そんなこと滅多にあることではないだろうと思われるかもしれませんが、発掘調査で銭が出土したという事例は、それほど珍しいことではありません。ただし、銭は誰もがその価値を認めるお宝ですから、



上開田村平遺跡(揖斐川町)出土の銭繒

土器のようにコンテナに何箱も出土するということはありません。土器は壊れたら捨ててしまうかもしれませんが、銭の場合、少しくらい欠けてしまっても銭繒に紛れ込ませて流通させたのです。つまり、銭については「捨てる」という行為は基本的に考えにくいわけです。では、どうして銭が出土するのでしょうか。また、出土銭からどのようなことが分かるのでしょうか。

銭が土中に埋まる理由としてまず想定できるのは、災害や事故などにより人の意志とは関係なく埋まってしまう場合です。火災や洪水によって家財とともに土中に埋まってしまった、あるいは懐に入れていた銭を不意に落としてしまったというようなこともあったに違いありません。

一方、人為的に銭を埋めたと思われる事例も数多く確認されています。

古代の三関の一つとして有名な不破関跡(関ヶ原町)では、関をめぐる土塁の北東隅で3枚の和同開珎が発見されました。これらの和同開珎は、当時、土塁を構築するとき埋められたと思われる土師器の中から見つかりました。鬼門の方角に当たることから、魔除



深戸A地点遺跡出土の寛永通寶と小刀

けのために地の神へ捧げられた供え物、つまり地鎮具の一種であったと考えられます。また、3枚とも和同開珎であったこと



不破関跡出土の和同開珎と和同開珎に代わって鑄造された萬年通寶(初鑄年=760年)

から推測すると、土塁がつくられた時期は萬年通寶発行以前(8世紀前半)であった可能性が高くなります。

また、深戸A地点遺跡(美濃加茂市)では、土坑から小刀と、それに付着して重なり合った7枚の寛永通寶が出土しました。その土坑の調査では、人骨らしきものは確認できませんでしたが、小刀と銭の組み合わせや、銭が7枚という数から考えて、江戸時代の墓であったと推測できます。つまり、7枚の寛永通寶は死



深戸A地点遺跡出土の寛永通寶

後の世界で困らないように持たせる六道銭であったと考えられます。また、埋葬の時期は、7枚の銭の内いちばん後につくられた銭の鑄造時期より判断して、18世紀前半より古くならないことも分かります。

この2つの例のほかにも、子供の無事な成長を願って胎衣(胎盤)とともに銭を埋めた例や、井戸の水を清めるために銭を投げ入れた例など、興味深い事例も報告されています。

このように、呪物として地中に埋められた銭が、発掘調査により発見され、古い時代の風習やその行為に込められた先人の願いを教えてください。また、銭は鑄造された年代がはっきりしている場合が多く、遺跡の年代を知るための重要な手がかりとなることもあります。ですから、発掘調査では、銭種・枚数・出土状況などについて、詳しい記録を残すことが大切であるといえるのです。

脚注  
 ※1:当センターが行った発掘調査では、35%の遺跡で出土銭を発見しています。  
 ※2:重ねた銭の穴に藁や紐を通して縛ったもの。  
 ※3:中山道上の要地である現在の関ヶ原町に置かれた古関。鈴鹿関(三重県鈴鹿郡)・愛発関(福井県敦賀市)とともに三関と言われています。  
 ※4:先人が掘った穴の跡。  
 ※5:三途の川の渡し賃との説もあります。ふうふう5~7枚の銭が用いられました。  
 ※6:平城京内の屋敷跡の例では、子供の立身出世を願って、銭とともに筆や墨を入れた胎衣容器(須恵器の壺)が出土しています。  
 ※7:例として、平城京内の井戸跡の底から、和同開珎・萬年通寶・神功開寶に加え富本銭が出土したのは有名です。  
 ※8:人々の願いを叶える呪力をもつもの。  
 ※9:例えば、貨幣には裏と表、つまり陰と陽があり、表をむけて埋葬することで陽の力を發揮させようとしたという説もあります。よって、発掘に際しては出土状況の記録が大切といえます。

# あゆみ

## 平成17年度の組織

### 文化財保護センター職員

常務理事兼所長	田口 久之
経営部	
経営課	課長 川瀬 崇敏 課長補佐 新田 雄一 主査 森 芳美、石原 啓之 事務専門職 古川 裕子
調査部	
調査第一課	部長 川部 誠 課長 大熊 厚志 課長補佐 鶴飼 高男、平田 篤志 河合 洋尚 事務補助員 本多 友美
調査第二課	課長 近藤 聡 課長補佐 山内 裕行 学芸主事 三輪 晃三、三島 誠
飛騨出張所	所長 小谷 和彦 課長補佐 渡邊 稔、小淵 忠司 大宮 次郎 学芸主事 澤村雄一郎、長谷川幸志 事務専門職 田口絵里奈

今年もよろしく  
お願いします



## センター日誌

- 3/22(火) 理事会
- 3/31(木) 職員転出者9名
- 4/ 1(金) 職員転入者3名
- 4/13(水) 整理作業開始
- 4/15(金) 出前考古学教室(国府小学校6年生)
- 4/16(土) 県民ふれあい会館展示
- ~5/31(火) 「飛騨の縄文時代②-上ヶ平遺跡」
- 4/18(月) 野内遺跡(高山市)発掘調査開始
- 5/25(水) 飛騨出張所見学(国府小学校1年生)
- 5/31(火) 出前考古学教室(三枝小学校6年生)
- 6/ 1(水) 県民ふれあい会館展示
- ~6/30(木) 「飛騨の縄文時代③-上岩野遺跡」
- 6/ 7(火) ハートフルスクエア-G展示
- ~6/21(火) 「HUMAN ~発掘された いにしえの人々~」
- 6/14(火) 榎原村平遺跡(揖斐川町)発掘調査開始
- 6/28(火) 理事会

## センター年間行事予定

### <普及活用事業予定>

- 7/16(土) 岐阜県発掘調査報告会  
(可児市総合会館)13:00~17:00
  - 7/26(火) 夏休みキッズ考古学  
「縄文時代へタイムスリップ わくわく土器・土器大研究」(三田洞事務所)
  - 7/27(水) タイムスリップ探検隊-親子で発掘体験-  
野内遺跡(高山市)
  - 8/23(火) 夏休みキッズ考古学  
「縄文時代へタイムスリップ わくわく土器・土器大研究」(三田洞事務所)
  - 10/15(土) 企画展「飛騨の発掘展(仮称)」  
~11/27(日)(飛騨・世界生活文化センター)
  - 10/22(土) 野内遺跡現地説明会(高山市)
  - 11/ 8(火) 考古学講座<遺跡の話、整理作業見学、体験>  
(三田洞事務所)
  - 11/15(火) 発掘速報展(岐阜県博物館)  
~12/18(日)
  - 11/27(日) 発掘速報展講演会(岐阜県博物館)  
前川要中央大学教授
  - 12/20(火) 発掘速報展移動展(県民ふれあい会館2階)  
~12/26(月)
- \*いずれについても詳細が決まり次第、新聞やホームページ等でお知らせします。

### <展示予定>

- ①県民ふれあい会館2階  
「生涯学習センター展示コーナー」(岐阜市)
  - ②県政資料館(山県市)
  - ③JR岐阜駅2階  
「ハートフルスクエア-Gキュービックギャラリー」(岐阜市)
  - ④道の駅ふじは「徳山民俗資料収蔵庫」(揖斐川町)
- \*4つの施設で出土遺物等を定期的に展示しています。ぜひご覧ください。



## あがき

年々、発掘調査事業量が減少し、今年度は野内遺跡(高山市)と榎原村平遺跡(揖斐川町)の2遺跡だけの発掘調査となりましたが、大きな成果があることを願っています。

今年度は、埋蔵文化財の普及活用事業を拡大し、新たに、考古学講座(三田洞事務所)、「飛騨の発掘展」(飛騨・世界生活文化センター)、ミニ展示(県政資料館他)など、いろいろな計画を立てています。学校への出前考古学教室もすでに2つの小学校で行いましたが、どの子どもも熱心で圧倒されました。出前考古学教室のほか、見学や体験学習も随時受け付けていますので、ぜひご活用ください。

センター掲示板

親子で発掘・整理体験！  
タイムスリップ探検隊  
参加者募集中！



平成16年度タイムスリップ探検隊 (赤保木遺跡)

- 対象 県内小学校5・6年生とその家族
- 参加費 無料
- 定員 30組程度



発掘体験の様子 (赤保木遺跡)

- 日時/平成17年7月27日(水) 午前9時～午後4時 (雨天の場合7月28日)
- 場所/野内遺跡 (高山市上切町)
- 内容/①「発掘に挑戦しよう！」  
②「遺物の整理に挑戦しよう！」
- 申込先/〒509-4122 高山市国府町名張字峠1425-1  
財団法人岐阜県教育文化財団 文化財保護センター飛騨出張所  
TEL 0577-72-4784 FAX 0577-72-4690
- 申し込み期間等/住所・氏名(応募者全員)・電話番号・学校名・学年を明記の上、7月15日(金)までに葉書・FAX・メールのいずれかでお申し込み下さい。

縄文時代へタイムスリップ  
わくわく土器・土器大研究



- ◆日時/第1日目：7月26日(火) 午前9:00～午後16:30  
第2日目：8月23日(火) 午前9:00～午後16:30 (雨天順延)
- ◆場所/文化財保護センター三田洞事務所
- ◆対象/県内小学校5・6年生・中学校1年生 (保護者の参加も可)
- ◆定員/24名
- ◆参加費/無料
- ◆内容/第1日目：①「本物の縄文土器を見よう」  
②「縄文土器の文様を研究しよう」  
③「縄文土器を作ろう」  
第2日目：④「縄文土器を焼こう」  
⑤「拓本をとろう」  
⑥「活動をアルバムにまとめよう」
- ◆申込先/文化財保護センター三田洞事務所調査部 (TEL 058-237-8553)
- ◆申し込み期間/電話にて7月12日(火)までにお申し込み下さい。

お申し込みいただいた個人に関する情報は、申し込み後の連絡のみに利用させていただきます。

Center News

ホームページ  
http://www.maibun.gifu-net.jp

三田洞事務所

〒502-0003 岐阜県岐阜市三田洞東1-26-1  
TEL. 058-237-8550(代) FAX. 058-237-8551  
e-mail : gifu@maibun.gifu-net.jp

飛騨出張所

〒509-4122 岐阜県高山市国府町名張字峠1425-1  
TEL. 0577-72-4784(代) FAX. 0577-72-4690  
e-mail : hida@maibun.gifu-net.jp